

令和6年度 第2回 伊勢原市立子ども科学館運営協議会 会議録

〔開催日時〕 令和7年2月19日（水曜日）午前10時から

〔開催場所〕 伊勢原市立子ども科学館会議室

〔出席者〕

（委員）

会 長	須永	尚世
副 会 長	榎並	幸与
委 員	佐藤	幸也
委 員	岩崎	祥行
委 員	藤木	隆
委 員	藤尾	克彦

（事務局）

教 育 長	山口 賢人
教育部長	成田 勝也
図書館・子ども科学館	
参事(兼)館長	林 かをり
図書館係長	秋山 喜則
子ども科学館係長	稲葉 一弘
主査	山内 恵

〔公開可否〕 公開

〔傍聴者〕 なし

《会議次第》

1 開 会

2 教育長あいさつ

3 会長あいさつ

4 議 題

(1) 屋上等防水改修工事の進捗について

(2) 令和7年度の組織編成について

(3) その他

5 閉 会

《議事経過》

1 開 会

（事務局）

過半数（6名中6名）の委員出席による協議会の成立について報告。

2 教育長あいさつ

3 会長あいさつ

4 議 題

(1) 屋上等防水改修工事の進捗について

【事務局より資料に沿って説明】

(教育長)

資料に斜めに右上に向かう点線がありますが、これは工事の進捗状況を表しているということでしょうか。

(事務局)

様々な工種を実施していますが、全体の出来高が最終的に100%になるということです。

(教育長)

今は2月の中旬なので、3分の1程度の進捗状況ですか。

(事務局)

ここまで工事は順調に進んでおりますので、4割くらいまで来ています。3月には6割近くまで進む予定です。

(委員)

令和7年度の10月に完成ということですが、リニューアルオープンに合わせて何かイベントなどを実施する予定はありますか。

(事務局)

工事が10月に終了するにあたり、コロナ禍前はプラネタリウムの投影を午前1回、午後3回行っておりました。コロナの流行中は午後の投影を1回減らしていましたが、それをコロナ禍前の午前1回、午後3回に戻して観覧の機会を増やすことを検討しております。それ以外の事業については、来年度に調整を進めたいと考えております。

(委員)

個人的な思いではありますが、子ども科学館にミュージアムショップがあればと思っております。例えば、実験のセットや図鑑、本などがあれば、大人も子どもの疑問に答えられたり読ませたい本を手にとることができて、楽しいのではないかと思います。

(委員)

ミュージアムショップのお話がありましたが、何年か前に小惑星探査機のはやぶさが帰還した際に、子ども科学館の前ではやぶさの写真をクリアファイルにして販売されていたことがありました。経緯はわかりませんが、何か伝手があるならばそういったことがあると良いと思います。

(委員)

ミュージアムショップについては、あると良いと思います。販売コーナーがある

ことで新しい世代の方に科学館を知っていただくきっかけにもなると思います。

工事は順調に進んでいるということですが、ここまでの間で苦情等が入っていないでしょうか。

(事務局)

大きな苦情等はありません。騒音について心配しておりましたが、それについて苦情等を受けたことはありません。一番多いのは駐輪場についてです。現在、施設の駐輪場が使用できず、市役所の駐車場に設置されている駐輪場を使用いただいておりますが、不便だというご意見があります。

(2) 令和7年度の組織編成について

【事務局より資料に沿って説明】

(委員)

今年度の事業報告に関して、サイエンスクラブの対象年齢と夏休み自由研究相談室の実績についてお伺いします。

(事務局)

サイエンスクラブの対象は小学5、6年生とその保護者です。夏休み自由研究相談室の実績については、令和5年度の数字になりますが143人です。例年、この人数前後の利用があります。

(委員)

今年度、情報系の教室を開催されたということですが、どのような内容だったのでしょうか。小学生に対して生成AIの使い方を教える教室などがあってもいいと思います。

(事務局)

今年度、子ども科学館に配属された教員が情報系に強く、スマホやタブレットとアプリを使用して小学校低学年の子どもでも理解できる初心者向けの教室でした。

生成AIの使い方や情報セキュリティを意識した教室も必要なのは理解しておりますので、これから検討したいと考えております。

(委員)

生成AIに関してはスマホで誰でも簡単に使える状況ですので、実害が出る前に早めにそういった教育ができると良いと思います。

(委員)

サイエンスクラブについてですが、以前は工作・実験、天文、パソコンの3グループで活動していたものが1グループになりましたが、今年度の参加者はどういった分野を対象に活動されていたのでしょうか。生成AIのような新しいものについては、まず実験的にサイエンスクラブの活動で試してみたいかがでしょうか。

(事務局)

パソコン室が閉鎖になったことや職員の削減により天文やプラネタリウム担当の不在、工作・実験担当も十分な人数が確保できない状況から3グループを1グループにして何とか続けています。実施内容は工作・実験、天文をそれぞれ体験できるように行っております。今年度も新しい事業については、サイエンスクラブで実施して募集教室に還元する手法も行っております。

(委員)

厳しい財政状況や職員の配置でご苦労されていると思います。職員が少なくなったから事業を減らすと入館者も減少するといった負のスパイラルに陥る可能性があると思います。前向きに検討していただき、ありがたいと思います。

また、研修指導主事として小学校の教員が配置されていることにより移動教室の内容等にうまくリンクしていると思います。研修指導主事を維持していただければと思います。

展示物についてですが、更新ができていないためにリピーターがなかなか増えない状況だと思います。他の博物館では常設展示と特別展示を行っており、子ども科学館でも同様のことを実施することにより、市民がまた行ってみたいと思うきっかけ作りを考える必要があると思います。

(事務局)

常設展示と特別展示ということですが、子ども科学館は博物館類似施設なので学芸員の配置がありません。展示を企画するに当たっては専門的な知識を持った学芸員が必要であると認識しております。

(委員)

文化財の担当には学芸員の資格を持った職員もいると思いますので、展示の組み立て方などのノウハウなどを教えてもらうなど、そうした職員を活用することによりできることもあるかと思います。

(委員)

特別展示についてはいいアイデアだと思います。子ども科学館のサイエンスクラブの活動実績や自由研究相談室の相談内容、クーデの日の様子といった活動の展示でもいいと思います。事業の様子が展示されていると今後の教室等の参加にもつながると思いますし自由研究については様々な事例を見る機会にもなると思います。活動内容の展示であれば専門的な知識も不要で実施可能だと思います。

(委員)

異動の時期だと思いますが、子ども科学館に配置されるのはどのような経歴の方なのでしょうか。理科ができる人など要望等されるのでしょうか。

(事務局)

基本的には職員課が職員の適性を見ながら、全体のバランスの中で配置をしています。

(委員)

特別展示についてですが、市内の企業が製品などを展示していたかと思います。単純に企業活動や製品を展示するのではなく、子どもにも分かりやすい内容を少し盛り込んだ形にして、それを特別展示にするのもいいと思います。

(3) その他

[会議録の承認について]

会長の承認による会議録の作成について了承された。

午前 11 時 30 分閉会